



Photo 1 ほぜっこ相撲 2 赤ちゃん土俵入り 3 須木小児童によるソーラン節 4 ステージイベントの様子

五穀豊穡に感謝！すきほぜまつりが開催

11月3日、須木地区の本庄川河川敷広場で五穀豊穡を祝うほぜまつりが開催されました。

まつりは、小学生力士による恒例のほぜっこ相撲からスタート。小さな力士たちの手に汗握る熱戦が、会場を盛り上げました。

また、化粧まわしを締めた可愛い赤ちゃんたちによる土俵入り、須木中央保育園児や須木小・

中学生によるダンスや踊りの披露、須木鳥田町地区の郷土芸能「いちょう太鼓」、お楽しみ抽選会なども行われ、晴天の中、約500人の来場者でにぎわいました。

会場内では、須木米や須木地区内で栽培された甘藷を使った芋焼酎「すきはるか」などの特産品のほか、飲食物の販売も行われました。

東方中とこすもす支援学校中部パラスポーツで交流を深める

11月7日、東方中学校体育館でパラスポーツ交流大会が開催されました。東方中学校と小林こすもす支援学校中学部の親睦を深めることを目的に実施しているもので、開催は昨年に続き2回目。生徒らはグループに分かれ、障がい者スポーツの中でもポピュラーな競技である、ボッチャとフライングディスクの2競技で交流を深めました。



当日は両校の参観日にも設定。チームの勝利やディスクの判定に歓声が上がる会場では、子どもから大人までが共生社会への理解を深めました

ライオンズクラブが市内支援学校に花の球根や育てる道具などを寄贈

11月14日、小林ライオンズクラブ（川野雄司^{かわのゆうじ}会長）が小林こすもす支援学校小学部と高等部にチューリップの球根やプランター、じょうろなどを寄贈しました。同クラブの社会貢献活動の一環で行われたもので、11月6日には中学部にも寄贈。各キャンパスで、クラブ会員と児童・生徒が花の植え付けなどを通して交流を深めました。



川野会長は「贈った花は卒業など節目を迎える時期に色づく予定。自分たちで一生懸命育てた花が咲く姿を思い出しにもらえたら」と話していました



芸術の祭典「小林市総合文化祭」で文化の秋を堪能

11月3日の文化の日を中心に、小林市総合文化祭が開かれました。

今年は、11月2日・3日に小林会場（中央公民館・市民体育館）と野尻会場（野尻町農村環境改善センター）で作品展を開催。会場には、絵画や書道作品、生け花など、出品者自慢の品々が展示されました。



Photo 1 作品展では子どもから大人までさまざまな年代が制作した力作が展示されました 2 芸能祭には16団体が出演。ダンスや舞踊などを披露しました 3・4 音楽祭には20団体が出演。詩吟やハーモニカ、コーラスや吹奏楽などを披露しました

穏やかな最期を迎えるために在宅医療介護連携の講演会を開催

10月18日、西諸地域在宅医療介護連携推進協議会の講演会が開かれました。在宅医療と介護の連携促進を目的に毎年開催しているもので、当日はめぐみ在宅クリニック（神奈川県）の小澤竹俊^{おざわ たけとし}院長が「住み慣れたふるさとで、人生の最期まで過ごせる社会を目指して」を演題に講演。参加者は医療と介護の連携の在り方などを学びました。



当日は市民や在宅医療関係者ら124人が参加。小澤院長は「孤独や孤立を防ぐには、苦しみがいさいうちに気付く人がそばにすることが大切」と話しました

「食べることは生きること」市内小中学校で食育教室を実施

10月28日と29日、ドキュメンタリー映画「弁当の日」監督で、「はなちゃんのみそ汁」著者の安武信吾^{やすたけしんご}さんと娘のはなさんが、市内小・中学校で食育教室を行いました。28日は東方中学校でおいしいみそ汁作りを、29日は南小学校で講演会を実施。参加した児童・生徒らは、食育の大切さと生きる力について学びました。



市内の学校で取り組む弁当の日について、安武さんは「親は一切手伝わないことが大事。自分の手で作ることが生きる力につながる」と訴えました

訂正とお詫び 令和6年11月号広報こばやしの「こばやしTopics」掲載の記事で、右の記事に氏名などの誤りがありました。訂正してお詫びいたします。

「絶品うまいもん甲子園九州大会」(21頁掲載) (誤) 河野 楓馬さん (正) 川野楓馬さん^{かわのふうま}
「中村さんエイジレス章受章」(23頁掲載) (誤) 中村 祐一さん (北西方) (正) 中村祐一さん^{なかむらゆういち} (南西方)

地域に根差して 150 年 西小林小・東方小・細野小で記念式典

市内小学校 3 校（西小林小・東方小・細野小）が今年で創立 150 周年を迎え、11 月 10 日には西小林小、11 月 17 日には東方小と細野小で記念式典が開かれました。3 校は明治 5 年（1872 年）に公布された学制により各地に小学校創設が進められるなか、明治 7 年に創立。各学校では、それぞれ児童による合唱や学校の歴史発表などが行われ、150 周年を児童や地域住民が祝いました。



【西小林小】Photo 1 3 年生が創立 150 周年をきっかけに地元保存会から継承した郷土芸能「鎌之手踊り」 2 1・2 年生による合唱【東方小】3 校庭にタイムカプセルを埋める児童 4 50～90 歳代の卒業生による記念座談会。児童からの質問に答える形で当時の学校生活を振り返りました【細野小】5 6 年生が細野を盛り上げるアイデアを発表 6 卒業生で女優・タレントの斉藤慶子さん。「細野小は私の原点。皆さんも 6 年間で宝物にして、勉強やスポーツをがんばって」と児童にエールを送りました



J R 吉都線×サイクルロゲイニング

11 月 10 日、西諸管内のチェックポイントを自転車で回る「サイクルロゲイニング in 北霧島 2024」（小林まちづくり株式会社主催）が開催されました。自転車をそのまま列車内に持ち込んで移動することができる珍しい体験を多くの参加者が楽しみました。



シルバー事業の普及啓発イベント開催

小林市シルバー人材センター（水落新理事長）は 10 月 20 日、小林駅横中央ふれあい広場で第 18 回シルバーフェスタを開催しました。事業の普及啓発や日頃の感謝を伝えることを目的に実施。会場はステージイベントなどを楽しむ家族連れでにぎわいました。



高齢者の一人歩きを地域で見守る

認知症などの高齢者の一人歩きに備え、地域で見守る体制作りを進めたいと、南西二区で 11 月 17 日に見守り声かけ訓練が開催されました。参加者は、実際の声かけを通して高齢者や認知症の人への適切な接し方や、関係機関への連絡方法を学びました。



霧島ジオパークを知る散策を実施

11 月 10 日、すきむらんど周辺で霧島ジオ散歩が開催されました。霧島ジオパークと綾ユネスコエコパークへの理解を広げようと霧島ジオパーク推進連絡協議会が企画したもの。市内外から参加した 18 人は地域の地質や植生について理解を深めました。



ポスターで健康の大切さと小林市の魅力を表現 健幸のまちづくりポスターコンクールの最優秀受賞者を表彰



写真⑧ 山下 希母さん、写真⑨ 内木場 暖さん

小学生の部最優秀賞



野尻小学校 6 年
やました 希母さん

中学生の部最優秀賞



東方中学校 2 年
うち 暖さん

山下さん こすも〜が弾くピアノの音の中に健幸のイメージを描きました。音楽が広がるように、健幸のまちが皆に伝わり、広がってほしいと思います。

内木場さん 大変だったのはホタルの背景。絵具が周りに飛ばないように工夫しました。西諸弁が好きなので「じょじょんよかところ」を入れています。方言を使うことで地域の人に広く伝わってくれるとうれしいです。

今年も市内小・中学生を対象に、「健幸のまちづくり」の啓発ポスターコンクールを開催しました。同コンクールは、生活の基本となる「健康」の重要性について自ら考え、健康づくりへの積極的な取り組みを啓発するために実施。今年は 241 点（小学校 115 点、中学校 126 点）の応募があり、健康の大切さと小林市の魅力を力強く表現した入

賞作品 21 点を選出しました。

11 月 8 日には表彰式が開かれ、最優秀賞の 2 人（小学校の部・中学校の部から各 1 人）が表彰されました。入賞作品は小林市総合文化祭などで展示されたほか、最優秀作品については、今後「健幸のまちづくり」の啓発用ポスターとして市内公共施設などに掲示し活用されます。

安心して住みよいまちづくりを推進 小林・高原安心安全まちづくり大会

11 月 13 日、文化会館で「小林・高原安心安全まちづくり大会」が開かれました。安全で住みよいまちづくりの推進を目指したもので、開催は 6 年ぶり。大会では、交通安全・地域防犯に関して功績のあった個人・団体の表彰や小林警察署による防犯・交通安全の講話、アトラクションとして幸ヶ丘小児童による「幸ヶ丘太鼓」などが行われました。



小林地区交通安全協会交通安全指導員による寸劇。駐車場内でのバック駐車や反射材を付けることの大切さを、西諸弁で分かりやすく呼びかけました

食材高騰の中で手助けになれば (株)ピッグファーム嶺石が豚肉寄贈

10 月 7 日、市内で豚肉の一貫経営を行っている株式会社ピッグファーム嶺石（嶺石藤男代表取締役）から学校給食用に豚肉 250 ㎏が寄贈されました。豚肉は、市内 21 の小・中学校で「豚肉のしょうが焼き」として 11 月 12 日に提供。野尻小 6 年の亀尾祐心さんは「柔らかくておいしいお肉を食べられてうれしいです」と話していました。



寄贈式で嶺石代表は「食材が高騰している中で、お世話になっている小林市や地域の人たちに何か協力できないかと思い寄贈した」と話しました

市政発展への顕著な功績をたたえ

かいぞうしゅんいち 海蔵俊一さん、こばるとしお 小原利男さん、くらたとみお 倉田富夫さん、ふくどめけんいち 福留健一さんに市民表彰

11月3日、文化会館で「令和6年小林市市民表彰式典」を挙行了しました。

式典では、「産業経済部門」で獣医師として畜産業の発展に貢献した海蔵俊一さんと畑地かんがい整備事業などの推進を通じて地域発展に寄与した小原利男さん、「地方自治部門」で区長や自治公民館長として地域住民の生活を支えた倉田富夫

さん、「教育・芸術・体育・文化部門」で教育者として学校現場で活躍、退職後も生涯学習の発展に尽力した福留健一さんの4人を表彰。

受彰者を代表して、倉田さんが「表彰は市民の皆さまのご厚情とご指導、ご支援の賜物。より一層心を引き締め、豊かな郷土小林のために努力したい」とあいさつしました。



地域経済活性化等に貢献したとして 小林まちづくり(株)へふるさと企業大賞

小林まちづくり株式会社(株崎庄二代表取締役)が、(一財)地域総合整備財団の「ふるさと企業大賞(総務大臣表彰)」を受賞しました。同賞は地域経済活性化や魅力あるふるさとづくりに貢献している事業者へ授与されるもの。同社の中心市街地活性化の取り組みや得た利益で地域活性化・雇用創出に取り組んでいることなどが評価されました。



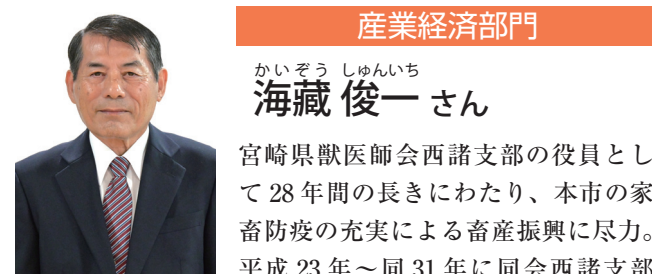
11月15日の伝達式で株崎代表は「収益性と公益性のバランスを取り、中心市街地だけでなく広く小林のためになる事業を展開していきたい」と話していました

長距離を移動する渡りのチョウ アサギマダラが小林小に飛来

渡り鳥のように長い距離を移動することで知られるチョウ、アサギマダラが11月5日、小林小学校に飛来しました。同校では今年7月に児童と保護者らでつくる「アサギマダラを迎え隊」を発足。隊員たちは、アサギマダラが好むといわれる多年草のフジバカマを校門付近に植え、水やりや草取りなどを続け、チョウの飛来を目指していました。



フジバカマが淡いピンク色の花を咲かせる中、蜜を求めて花から花へと舞うアサギマダラの様子に、子どもたちからは感嘆の声が上がっていました



産業経済部門

かいぞう しゅんいち
海蔵 俊一 さん

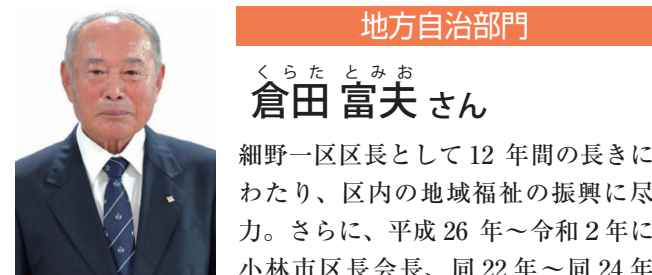
宮崎県獣医師会西諸支部の役員として28年間の長きにわたり、本市の家畜防疫の充実による畜産振興に尽力。平成23年～同31年に同会西諸支部長、同3年～同23年には同会理事などの要職を務めた。平成12年と同22年に県内で発生した口蹄疫では、家畜診療に携わる獣医師として最前線で自衛防疫対策に参加し、蔓延防止に尽力。畜産行政に携わる関係機関との連携を深めるなど、本市の基幹産業である畜産業の発展に貢献した。



産業経済部門

こばるとしお
小原 利男 さん

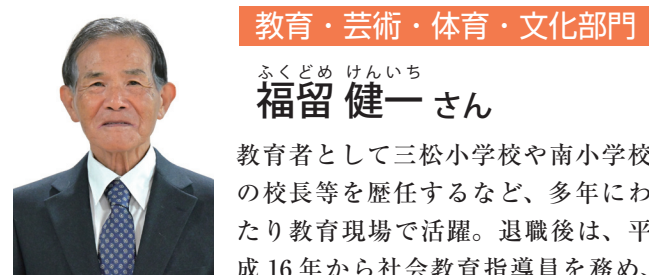
25年の長きにわたり、二原土地改良区の理事長や理事の要職を歴任、土地改良事業による基盤整備に尽力した。平成16年～同29年に西諸土地改良区の理事、同29年～令和2年には副理事を務め、畑地かんがい整備事業の推進に貢献。現在も東部第一地区畑地かんがい事業推進委員長を務める。さらに、真方地域集落営農推進協議会の会長や副会長を16年間、真方三区区長を8年間務めるなど、地域の発展に寄与した。



地方自治部門

くらたとみお
倉田 富夫 さん

細野一區区長として12年間の長きにわたり、区内の地域福祉の振興に尽力。さらに、平成26年～令和2年に小林市区長会長、同22年～同24年及び令和2年～同4年には理事の要職を務めた。7年間務めた細野一區自治公民館館長においては、地域の念願であった公民館建設に尽力し、建設後は地域活動の活性化や防災力の向上にも努めるなど、本市地方自治の発展に貢献した。



教育・芸術・体育・文化部門

ふくどめ けんいち
福留 健一 さん

教育者として三松小学校や南小学校の校長等を歴任するなど、多年にわたり教育現場で活躍。退職後は、平成16年から社会教育指導員を務め、家庭教育学級の活性化に尽力した。また、三松地区の見守り隊において発足時から現在も活動し、あいさつ運動や交通安全活動により青少年の健全育成に努めた。さらに、高齢者や保護者など地域住民を対象とした講演を多数行うなど、生涯学習の発展に努めた。

長年にわたり市民の健康づくりに貢献 市食生活改善推進協議会が厚労大臣表彰

小林市食生活改善推進協議会(柳田きえ子会長)が、食生活の改善などに功労があったとして、厚生労働大臣表彰を受彰しました。現在協議会では、31人の食生活改善推進員が活動。野菜を使ったレシピの考案・周知などを通じたベジ活の推進や料理教室の開催、郷土料理の普及活動など、市民の健康づくりのために幅広く活動しています。



スローガンは「私達の健康は私達の手で」。柳田会長は「今後も地域の方と交流しいろいろな情報を発信して、健康のまちづくりに貢献したい」と話していました

租税教育の推進に多大な貢献 小林高校に熊本国税局長感謝状

11月14日、「税を考える週間」に合わせ、小林税務署長納税表彰式が文化会館で行われました。式では、租税教育に長年取り組んできた小林高校に熊本国税局長感謝状が贈られたほか、納税道義の高揚や租税についての正しい知識の普及などに功績のあった個人や団体、「税についての作文」の入賞者などの表彰が行われました。



【受賞者(敬称略)】
小林税務署長表彰 児玉龍之介 【租税教育推進校等感謝状】熊本国税局長感謝状 小林高校 小林税務署長感謝状 紙屋中学校【中学生の「税についての作文」】南九州地区納税貯蓄組合連合会会長賞 久留木菜摘(西小林中)【中学生の「税についての標語」】小林税務署長賞 川久保波那(紙屋中)